

ウェルカム  
茨城

Welcome Ibaraki

『Made In Japan のものづくり』を  
“つくば”から発信する。

# 株式会社トーネジ 本社工場（つくば市）



代表取締役 岡部 純氏

## 建設現場で使用するリベット製造からスタート

株式会社トーネジ（以下、トーネジ）は、1957年（昭和32年）現代表取締役の実父である岡部博氏が、東京都葛飾区に有限会社東京ネジ製作所を創業したことに始まります。

創業時は、高度経済成長の建設ラッシュで、建設現場で使用するリベット等を製造していました。その後、1970年（昭和45年）建設用ハイテンションボルト<sup>(\*)1</sup>の生産に着手し、事業の中心を建設用ボルトに集約していきました。

1970年代に、生産拠点として埼玉県三郷市に工場を2ヶ所設置し、会社組織も株式会社に変更する等、業容は順調に拡大していきましたが、バブル崩壊やリーマンショック等、不景気のおおりを受け、1999年（平成11年）に、主力商品であったハイテンションボルト事業から撤退しました。

ハイテンションボルト事業からの撤退により、厳しい経営環境に陥りましたが、2000年（平成12年）、国内自動車メーカーの自動車用ねじの製造に着手する等、新たな事業領域への進出により困難を乗り越えました。

その後、建設現場の声を反映したボルト等の自社開発と市場展開により次第に業績を伸ばし、2016年（平成28年）、つくば工場及びつくば事業所を新設、2018年（平成30年）に社名を株式会社トーネジに変更すると共に、本社機能をつくば工場に移転しました。

## 建設現場のニーズから画期的なボルトを創り出す

トーネジは、ボルト、ナット、座金といった従前の鈎螺製品の提供だけでなく、多様化する社会の中で、取引先の様々な要望に応えるべく、金属パーツ品の開発、設計、VA<sup>(\*)2</sup>提案等を通じて取引先のより良い製品づくりをサポートしており、「お客さまの要望を発想力で形に変える」をモットーに事業を展開しています。

この取引先の要望を形に変える“発想力”は、トーネジの“強み”であり、その“強み”から生まれた商品が「D-LOCK（ドープチロック）」と「Hug Bolt（ハグボルト）」です。

「D-LOCK（ドープチロック）」は、建設現場での作業性を考慮し、付属する機能部品を組み込むことで、従来の5ピースから2ピース構造とした新発想のセットボルトです。少ない部品で扱いやすく、取り付けスピードもアップするため、作業スペースが限られた場面でも作業しやすく、落下や紛失のリスクを低減しています。それにより、建設現場の安全性向上と、施工コストの削減にも貢献しています。また、「D-LOCK（ドープチロック）」は、その高い機能性等が評価され、2011年（平成23年）建築鉄骨構造技術協会の技術評価を取得しています。

「Hug Bolt（ハグボルト）」は鉄骨構造物用の仮組ボルトで、従来の仮組ボルトと比べ、ねじのピッチ、ねじ山の角度、ねじの先端のリードを全て大きくしています。それにより、ボルトとナットの初期勘合から回転がスムーズになり、作業性の向上に貢献しています。また、ねじ部分に打痕が付きにくい構造であるため、使い捨てが当たり前だった仮組ボルトを30回再利用可能にしたボルトで、環境や廃棄コストの削減にも貢献しています。

トーネジでは、ゼロエミッションへの挑戦の一助として、「Hug Bolt（ハグボルト）」の回収から再利用にいたるリユース<sup>(\*)3</sup>プランを考案しました。それに



つくば市の本社工場



画期的なボルト「D-LOCK」



地球にやさしいリユースボルト「Hug Bolt」

より、建築現場での資源の滞留時間を短縮し、自然環境負荷の低減と環境保全意識向上を目指した新しい取り組みを行っています。

リユースプランの実行にあたり、「Hug Bolt (ハグボルト)」を回収する必要があります。トーネジでは、全国津々浦々に出荷した全ての「Hug Bolt (ハグボルト)」を工事ごとにロット管理する等、きめ細やかなサービスも徹底して行っています。

これらトーネジの主力商品である「D-LOCK (ドープチロック)」と「Hug Bolt (ハグボルト)」は、営業担当者が直接現場に赴き、建設現場に携わる人々の声を反映させて創り出した商品で、地道なマーケティング活動とトーネジの豊かな発想から生まれた、ブランド商品として全国でも高い知名度を誇っています。

## 地方創生全国第1号事業のつくば工場 (現 本社工場)

トーネジでは、埼玉県三郷市に工場、東京都葛飾区に事業所と倉庫を構えていましたが、工場が手狭になってきたこと、さらに事業効率化の観点から生産と物流の統一目的に、新たな製造物流拠点を模索することになりました。

2015年(平成27年)、つくば市からの誘致もあり、常磐高速自動車道路の谷田部インターチェンジ付近に12,708㎡の土地を取得、合わせて地方創生全国第1号事業として、茨城県より地方活力向上地域特定業務施設整備計画認定も取得し、翌2016年(平成28年)に延べ床面積2,720㎡のつくば工場、支社を新設し、つくば事業所として事業を開始しました。

この新設した工場は、常磐自動車道を走行中に確認することができる場所にあります。また、三郷工場と比べスペースが広く操業時間に制限がないことから、効率の良い操業ができ、生産能力が飛躍的に向上し、業績も拡大しました。

2018年4月、本社機能の移転により、つくば工場が本社工場となり、社名もトーネジに変更したのを契機に、ロゴマーク、ワークウェアを一新しました。

現在、本社工場に勤務する従業員は45名で、その内20名程度が地域住民となっています。トーネジでは、今後も地域住民の雇用を続けていく方針であり、地域にとって魅力ある雇用の場となっていくことが期待されます。

また、本社工場では、人材育成も積極的です。圧造等技能の講習等、技術者向けに限らず、生産性向上のためのIoTの取り組み等についての研修も実施しています。

## オンリーワンの会社であるために

現在、全国の建設現場では職人不足が叫ばれており、作業には、安全性と効率性が求められています。また職人の熟練度も千差万別です。そのような建設現場において、トーネジの商品は、取り扱いが簡単であり、熟練度に左右されないため、非常に重宝されています。

トーネジの営業担当者は、建設業界の川上にある建設業者等から川下の現場職人まで対応しているため、自然と建設業界全体を担当するようになります。そのため、通常は問屋に商品を卸して終わるBtoBのところ、エンドユーザーの声を直接反映させていることから、結果的にBtoCの関係まで構築する等、他の同業者では対応が難しい体制を構築しています。

2020年以降、建設業界は厳しい環境にあると予想されています。しかし、トーネジでは、GNT<sup>(\*)</sup>カンパニーへの成長だけに留まらず、“茨城のネジ” = “トーネジ” と呼ばれるような、地域と深い絆で結ばれるオンリーワン企業への成長が期待されます。

- \*1 ハイテンションボルト…高張力の鋼で作られた強度の高いボルト。部材同士を高力ボルトで締め付けることで摩擦力を生じさせ力を伝達する。主に鉄骨橋梁等に使用される。
- \*2 VA…Value Analysis (価値分析) の略。量産化している既存製品に対して、バリューチェーン全体の視野からコストダウンを行う活動のこと。具体的には、図面や仕様書の変更、製造方法の効率化、発注先の変更などによってコスト低減を行う。
- \*3 リユース…再利用Reuse のこと。Reuse(リユース:再使用)、Reduce (リデュース:発生抑制) Recycle (リサイクル:再生利用) の頭文字をとって3Rと呼んでおり、その利用と処分に当たっては、リデュース・リユース・リサイクルの順に取り組むことが重要とされている。
- \*4 GNT: Global Niche Topの略。産業構造の変化や、求められるニーズの変化に迅速に対応するため、大企業や主要業界団体だけでなく、ニッチ分野において高い世界シェアを有し、優れた経営を行っている中堅・中小企業のこと。

### 会社概要

所在地	(本社・工場) 茨城県つくば市みどりの中央 85-2
業種	鉄鋼製品、金属パーツ製品の製造販売業
従業員数	60名
代表取締役	岡部 純
連絡先	(本社・工場) 029-846-6101
URL	<a href="https://www.toneji.co.jp/">https://www.toneji.co.jp/</a>